

ゆる思考

本橋 正成†

今日の社会では、闘争や対立を始めとする問題が絶えず、収束しない。議論においても、相互理解を得ることが困難であることが多い。ゆる思考は、それらの問題をゆるめることによって、根本的に解決を目指す社会やビジネス、情報技術を視野にいれた生きるための観点を提供する。

Yuru Thought

Masanari Motoashi†

Abstract

Today, there are many conflicts in our society, and they are difficult to reach reconciliations. In the discussion in different area and domains, getting consensus is also difficult. Yuru thought is for solving or resolving these issues for society and business, esp. information technology.

な視点は存在しない。

1. 状況

社会には、思想、宗教、政治から好みに至るまで幅広く多様な意見が含まれている。

価値判断や問題意識は、文化（規範と慣習）や文脈によって大きく異なる。文化とは「人間の生活様式の全体。人類がみずから手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきた。(大辞泉)」となっている。ある固有の文化は、個々人によって産み出されると共に、文化によって個々人の生活様式や行動に影響を与える[1]。慣習は、ある集団の成員の多くがとっている行動様式で、1. 慣性、2. 自己拘束力、3. 規範の三つの支えている[2]。このような規範をベースに、文化は変化しながら継続的な全体を維持している。

2. フォース

- それぞれの文化を統一しようと自分の意見を強く出すと衝突し、
- それぞれの文化によって正しさ（問題）が異なるので、ある言葉を同じ意味で使っているとは限らない。
- ひとつのモデルで複数の領域を記述することはできることがあるが、客観的でかつ絶対的

3. 解決策

考え方をゆるめてみよう（寛容と尊重）

ゆる思考とは、動的な変化を前提とし、主観的で相対的な観点を持ちながら、システムに基づいた関係性や構造を扱う[3]。たとえば、多くの価値観では「個 individual」は、分離不可能を意味している。つまり、私は私であり、あなたはあなただ。仕事でも、私の仕事は私の責任にあり、あなたの仕事である。しかしながら、「個」は、その単体では存在し得ない。一本の木が存在するためには、光や土、空気、水などが必要だし、木を見るときには、大地や空、その周りの景色も見ている。「個」は、便宜上そのように置いているだけで、それ単体では存在し得ない。その「個」が厳格な領域を探索しているのに対して、「木」という言葉や意味をゆるめることを行っているのだ。

動的な変化（ダイナミックス）を前提としていることは、たとえば、一本の木でも、この瞬間と、次の瞬間では、風でゆれたということだけでも、変化している。自分自身の認識も変化しているのかもしれない。このように常に変化していることを前提にしている。

主観的で相対的な態度とは、自分の認識と他の人の認識は原理的に異なることである。リンゴなどの物を見たとき、それが同じ認識パターンかどうかは

†東京工業大学/Tokyo Institute of Technology.

わからない。しかしながら、常にフィードバックをしながら、リングという共通理解を得てくる。自分でもひとつの現象を見たときに、その一瞬一瞬は違っているが、それすらも情報を扱いながら補正して認識しているのだ。つまり、リングひとつでも、その人の文脈や文化に大きく影響を受けながら、認識パターンや意味が異なっている（図1）。

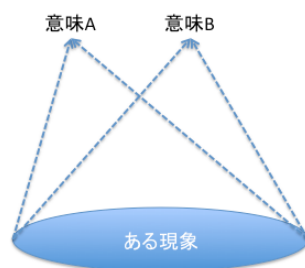


図1 意味と現象

その現象を見るとき、その関連性や構造に基づいたシステムに着目する。ある「個」が溶け出しているように他と関連している以上、ひとつの事柄を観察するときに、必ず関連性や構造を見る必要がでてくる。考え方をゆるめることは、正しさや問いそのものに科学的懐疑の目が向けられる。その結果、意識が自分を含めた環境に向くことになり、フィードバック系を伴うシステムを構築しやすくなる。

究極的には「何でもあり(anything goes)[4][5]」を目指すものである。何でもありであっても、環境や認識能力による制約は無限に存在するため、自ずと選択できる範囲は限られてくる。そのゆるめ度合い（とらわれている度合い）を相対的に認識する。

つまり、ゆる思考とは、ゆる思考とは、動的な変化や主観的で相対的な観点を持ちながら、システムに基づいた関係性や構造を持つ、包括的な思考方法を目指す。ゆるマップ（図2）は、ゆるに関係する図を示している。たとえば、パターン技術とプロジェクトランゲージは、ゆる思考を支える重要な技術である[6][7]。

4. 結果

4.1. 利点

- 多様性のある永続的（サステイナブル）な営みが実現できる。
- まるで水のような形のない、強い状態を維持しやすい。

4.2. 課題

- ゆるくない非寛容な態度に対する対策が必要になる。その場合は、距離を置くことやペナルティなどの戦略を検討しよう。

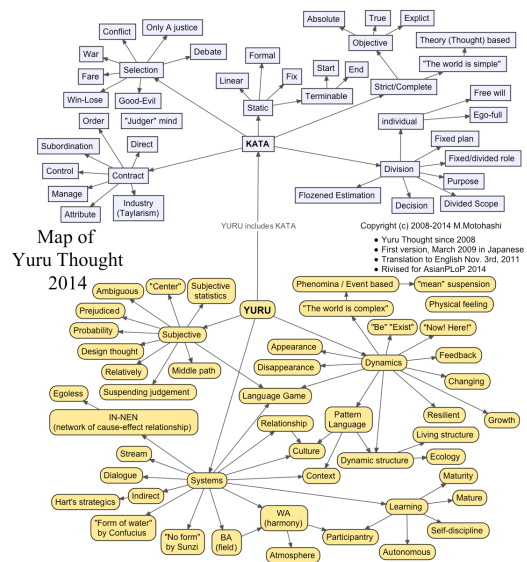


図2 関係する領域

参考文献

- [1] 安田雪. (1997). ネットワーク分析—何が行為を決定するか. 新曜社.
- [2] 松井彰彦(2002): 慣習と規範の経済学, 東洋経済新報社
- [3] 本橋 正成 (2011): ゆるっという, 知働化研究会誌 vol.1, アジャイルプロセス協議会 知働化研究会ワーキンググループ
- [4] ポール.K.ファイヤーアーベント, 村上陽一郎訳(2007), 知についての三つの対話
- [5] ポール.K.ファイヤーアーベント, 村上陽一郎ほか訳(1981), 方法への挑戦
- [6] 本橋正成ら(2001): ソフトウェアパターン—時を超えるソフトウェアの道—:4.これからのみんなのことば, みんなのかたち—パターンランゲージからプロジェクトランゲージへ—, 情報処理学会
- [7] Masanari Motohashi, et.al(2011): From Pattern Language to Project Language, 2nd Asian Conference on Pattern Languages of Programs